

雲仙火山のマグマ溜まり

島原半島は温泉で有名だ。実際、雲仙の町と雲仙火山群にある雲仙の名前は温泉の音に違った漢字をあてたことが由来となっており、20 世紀初頭に現在の表記となった。温泉は半島にある小浜、雲仙、島原という 3 つの町で楽しめる。各温泉の異なる泉質について学ぶことはこの地域を形成したとてつもない火山の力をより深く知る良い方法だ。

マグマはすべての天然温泉の熱源で、これらの温泉は西の橋湾の海底深くでマグマに熱されている。そこから熱いガスが火山の吹き出し口を通して西から東へと移動し、表面に近づくにつれて地下水や雨水と混ざり合う。この水とガスの混合物が出てくる場所に温泉が作られる。

島原半島の地図を見ると、小浜、雲仙、島原の温泉間はほぼ一直線に並んでいる。これは断層という地域のもうひとつのはっきりとした特徴による。地震が頻繁に起きると、その断層の方向に沿って地殻に亀裂が生じる。

マグマが上昇するにつれて、ガスの温度と圧が徐々に下がり、その化学成分も変わる。例えば、小浜で温泉となるものは硫黄含有量が高く非常に高温で、一方島原の水はより温度が低く鉄分が多い。マグマだまりの形と島原の陸塊は、人々が現在半島で繁栄している様子において重要な役割を担っている。温泉旅行客がいなければ、この半島はこんなにも人口が増え発展することはなかっただろう。